

平成26年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

ウリソツクラブ～ウーリークラブ卒業ファミリーの会～

通年実施事業

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

ウーリークラブに参加した家族が、継続して「子育て」の情報交換を行ったり、畑作業を通じて交流し、自然や食への関心を高めたりすることで、吉備の自然を生かした子育てを提案する。

2. 事業の概要

(1) 期日

第1回	5月11日(日)	11時00分～15時30分
作業①	7月6日(日)	13時30分～15時00分
作業②	7月20日(日)	10時00分～11時30分
作業③	10月26日(日)	13時15分～14時00分
第2回	11月16日(日)	10時00分～15時00分

(2) 対象

平成25年度ウーリークラブ参加家族

(3) 各回参加家族数

第1回	11家族・38名
作業①	1家族・4名
作業②	0名
作業③	0名
第2回	15家族・31名

(4) 講師等

第1回 大北農園 大北 一哉 氏

(5) 企画・運営のポイント

- ①ウリソツクラブが年間を通じて活動するために、農園での野菜作りを活動の軸とした。
- ②子育てに「食」が占める割合は非常に高いことから、自分たちで作った野菜を食べることで「食」への関心を高めるようにした。
- ③ウーリークラブでも「自然と親しむ」ことをねらいに掲げていたことから、ウリソツクラブでも「自然」をより意識できるように「自然農」を導入した。

- ④家族が自由に野菜を植えることができるスペースを設けた。
- ⑤次年度への導入として、ウリソツクラブの参加者とウーリークラブの参加者が交流できる機会を設けた。
- ⑥参加者に農園の様子を伝えたり、作業日の連絡をしたりするために、「ウリソツノート」という手紙を届けた。

3. 活動の内容等

(1) 第1回

5月11日(日)		
10:30	受付	農作業の内容 ◇畝作り ◇苗植え, 種蒔き ・サツマイモ(安納, キントキ) ・トマト(ミニトマト, 中玉トマト) ・スイカ ・カボチャ ・キュウリ ・スイートコーン ・ナス ・ピーマン
11:00	お久しぶりの会	
11:30	講演「自然農の魅力」 (講師: 大北一哉氏)	
12:00	お弁当	
13:00	農作業 (講師: 大北一哉氏)	
15:00	またねの会	



【講師の指導】



【苗植え】



【草花遊び】

(2) 作業①

7月6日(日)		
13:15	受付け	農作業の内容 ◇収穫 ・トマト ・キュウリ ・ピーマン ・青シソ ・ジャガイモ ◇種蒔き ・ポップコーン
13:30	作業	
15:00	解散	



【キュウリの収穫】



【ポップコーンの種蒔き】



【収穫】

(3) 第2回

11月16日(日)		
9:30	受付	野外炊事メニュー ・キノコとサツマイモのおこわ ・チキンポトフ ・ポップコーン ・焼き芋
10:00	お久しぶりの会	
10:30	野外炊事 サツマイモの収穫・調理 ポップコーンの脱穀・調理	
15:00	またねの会	
15:30	解散	



【お久しぶりの会】



【家族紹介・近況報告】



【野外炊事①】



【野外炊事②】



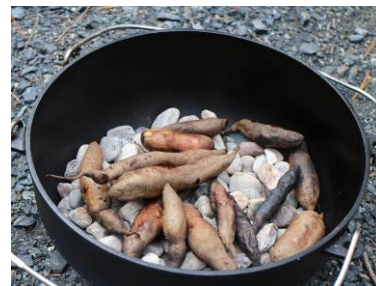
【ポップコーンの脱穀】



【ポップコーンの調理】



【イモ掘り】



【焼きイモ】



【やりたい事を発表】

4. 成果・課題

(1) 成果

◇参加者(保護者)の満足度

第1回 88.9%

第2回 100.0%

◇ウーリークラブの参加者が事業後に集う機会を提供することができた。

平成25年度ウーリークラブ参加者16家族のうち、第1回は10家族、第2回は7家族の参加があり、交流を深めることができた。

◇野菜の種蒔きや苗植えを体験し、それを収穫したり調理したりすることができた。

実際に収穫・調理まで体験できた品種は少なかったが、種蒔きや苗植えをした野菜を食べることができ、参加者の感想に「日頃対験できない事ができ、大変参考になりました。」とあった。

◇自然農を取り入れることで、「農薬や肥料」を使用せずに野菜を育てる経験ができた。

自然農では野菜以外の草を最低限しか刈らないため、農作業の間に草花遊びをしたり、昆虫を捕まえたりして楽しむことができた。

また、「農薬や肥料」を使わないことから、安全な食への関心を高めたり、安心な野菜作りへの関心を高めたりすることができた。

◇ウーリークラブに昨年度参加者した家族と今年度参加している家族が交流できた。

第2回の収穫祭には、今年度からウーリークラブに参加している家族も3家族参加し、次年度にむけてウリソククラブ参加者の縦の交流を図ることができた。

◇参加者の活動希望を確認することができた。

第2回の最後に今後取り組みたい活動を考える時間を設けたところ、「ジャガイモを作ってポテトチップス作り」、「大豆を作って味噌作り」、「ピザ窯を作ってピザを焼く」などの希望が挙がった。

(2) 課題

◇年間活動計画を事前に参加者に伝えることで参加率を高める。

年度当初は、参加者が都合の良いときに当施設に連絡をして野菜作りの作業をするようにしていた。しかし、「自由に作業に来てください」としても参加がなかったことから、7月からは作業日を設定し、一ヶ月前に参加者に伝えるようにした。しかし、結果として作業に参加した家族は1家族にとどまった。

来年度は、今年度の経験から作業のボリュームや必要な時期が想定できることから、年間のスケジュールを参加者に年度当初に示すことで、参加者が作業に参加しやすくする必要がある。

◇参加者が事業の運営に関わるように工夫する。

ウリソククラブのゴールは「参加者が主体的に活動するクラブ」を作ることである。来年度は、一人でも多くの参加者に運営に関わるように役割を用意する必要がある。

例えば、午後から事業を開始する場合に、希望者には午前中の準備に関わっていただいたり、参加者の得意分野や専門性を生かして事業の講師を担当していただいたり、

参加者が関わりやすいように工夫する必要がある。

◇100名近い参加者に対応するプログラムを検討する。

来年度のウリソツクラブは30家族が対象となり、一堂に会すると100名近い人数となる。各回の参加を抽選にしたり、全体会では100名が参加できる活動を計画したりする必要がある。

◇家族菜園用のスペースを有効活用する。

今年度は希望する家族が自由に野菜を育てることができるように菜園スペースを設けたが、「頻繁に手入れをしに施設に訪問できない」との理由から、希望する家族がいなかった。

そのため、来年度はそのスペースを有効に活用し、野菜作りをしたり、参加者が集えるスペースにできるように検討する。

◇職員が日常の手入れを担当することを想定した勤務体制を構築する。

昨年度は、参加者が中心となって畑の手入れを行うことを想定していたが、実際には職員が担うこととなった。参加者の声を聞くと、「当施設までの距離が離れているため、頻繁に手入れに来ることが難しい」という意見が多かった。

そのため、来年度は職員が日常の手入れを行い、参加者には事業に参加した時に作業を手伝っていただくように計画する必要がある。

職員が日常の手入れをするために、担当者は通常の勤務時間の前に作業時間を確保（2名1回／週のペース）できるように工夫する必要がある。

担当：企画指導専門職 渡邊 剛志